



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年7月4日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1」

幼児教育の質の向上及び幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善 ー 幼児の遊びや生活に関する現状と課題ー

- 意図的に用意しなければ、幼児の発達に必要な、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を十分に確保することが困難に。
- 一部の幼児教育施設では、幼児の興味・関心ではなく、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズを優先するなどし、幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘あり。



<直接的・具体的な体験の一層の充実>

- ◆ どの幼児教育施設においても、幼児の自発的な活動としての遊びを通して資質・能力が育まれるよう、様々な人やものと直接的・具体的に関わる体験を一層充実する方向で要検討

<幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進>

- ◆ 幼児教育施設と小学校の両者が、相互に共通理解を図り、各園・校における架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）のカリキュラムの作成やスタートカリキュラムの充実等の取組も含め、円滑な接続を一層推進する方向で要検討

【方策（案）】

- ・ 子供の資質・能力を育む学びの連続性を明確にするため、幼稚園教育要領等においても、学習指導要領との連続性を表形式やデジタルを活用して示すことが必要
- ・ 子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」と小学校以降の授業改善の取組について相互理解が図られるよう、幼小中高の指導方法の趣旨の一貫性を明確にすることが必要

自ら学ぼうとする姿勢が大事

憤^{ふん}せずんば啓^{けい}せず、ひせずんば発^{はっ}せず。

一隅^{いちぐう}を挙^あぐるに、三隅^{さんぐう}を以^もって反^{はん}せずんば、則^{すなわ}ち復^{ふたたび}せざるなり。

（訳）疑問を解決したいという情熱があふれ出るくらいにならなければ、私はこれを啓^{ひら}き導くことはしない。聞きたいことがあるのに、言葉ではうまく言えなくて、もどかしい気持ちにならなければ、私ははっきりとは教えない。部屋の一つの隅を取り上げて示すと、他の三つの隅も自分で推測して説明できるほどでなければ、繰り返し教えることはしない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）